上高井教育会報

第238号
発行所
上高井教育会
発行人
上高井教育会理事長
新津朋典
編集人
会報編集委員長
松澤裕子
印刷所
須坂新聞社

共に学び共に創る教育会

上高井教育会理事長　新津朋典

本年度、一般社団法人上高井教育会理事長を務めさせていただきます、高山中学校の新津朋典です。もとより微力ではありますが、職務の重要性と責任を深く認識し、教育会発展のために力を尽くして参りたいと存じます。皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、上高井教育会は、信濃教育会が発足する一年前の明治十八年（一八八五年）に上高井郡私立教育会として創立され、百三十八年目を迎えます。多くの先輩の先生方が大切にされ築いてこられた「みんなで共に創る教育会」、そして「不易流行」の精神を基にして、「子どもと共に自らの力を伸ばす」職能向上の思いと、「仲間と共に学び、共に創る」協働の思いを引き継ぎ、さらに発展させていきたいと考えています。

さて、多様化する社会の中で、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えています。また、チャットGPTをはじめとした生成AIの普及が、今後私たちの生活を豊かにしてくれるといわれておりますが、反面悪影響も心配されています。特に教育においてもどのように影響があるのか予想ができず、生成AIとの共存共栄をいかに図っていくかが教育現場での新たな課題の一つとなっています。

また、第四次長野県教育振興基本計画が発表され、「個人と社会のウェルビーイングの実現、探究県長野の学び」が目指す姿として提言されています。私たちは、このような難しくかつ実現すべき課題が多岐に渡る時代だからこそ、不易なるものを大切にしつつ、様々な研修を通し自分自身を磨いていく必要があります。「研修は未来の自分への投資である」との言葉もありますが、上高井教育会の事業が皆様方にとって未来につながる充実した学びの場、となるよう努めていきたいと思います。

その事業の中で大切にしている職能向上の大きな柱に郡研究委員会があります。本年度も信州大学の畔上一康先生を中心講師としてお迎えし、「子どもと共に創る授業～子どもの学び教師の学び～」をテーマに、互いの実践に学び合い、そして授業を通して職能の向上を図っていきたいと考えています。畔上先生からは、今年度の総集会では、「学びにおける自立と協働」として、一人学習と協働的学習のバランスをどう考えていったら良いかといった視点から、ご指導いただいております。個別に学習を進めながらも、節目節目で協働的学習も取り入れていくことで、学ぶ側の視点に立ち、どの教室でも子どもが生き生きと学習活動に取り組み、力を伸ばしていく姿を求め、研修を重ねていきたいと考えます。

また、同好の仲間が集い、教職員としての専門性や教養を高めると共に、日々の生活を豊かにする同好会も、仲間とつながり合い、共に学び合う貴重な研修の場です。夏休みには、夏期講座として講習・講演・巡検等が集中して企画されています。

さらに、夏の講演会では、西山瞳トリオの皆様をお招きし、ジャズの演奏会を行います。例年とは趣向が異なりますが、今年度はジャズの演奏を心ゆくまでお楽しみいただければと思います。ご期待ください。

教育会は、教職員と子どもたちのためにあります。必要感をもって、自ら求め参加していただける上高井教育会を皆様と共に創り上げたいと願っております。宜しくお願いいたします。

（高山中）

教育会だより

4・3　各校にて代議員及び信教代議委員選挙
4　第一回総会　○新役員の承認
　第一回理事会
6　第二回理事会
12　教育会会計監査
14　研究委員長会①
17　教研三団体代表者会①　教研推進委員会①
20　第二回定時社員総会
　○令和四年度事業報告及び決算承認
　○令和五年度事業計画及び予算承認
24　教研推進委員会②
28　教研学校代表者会①
5・2　教育会総集会（於：墨坂中）
　中心講師講演会
　＊研究委員会・同好会　世長会
19　研究推進委員会②
22　教研推進委員会③
23　新任者研修会・歓迎会（兼　信州教師塾B）
30　同好会②
6・9　教研推進委員会④
7　第三回理事会
13　第三回総会
16　教研分科会　会長司会者打合会
20　研究推進委員会③
7・1　信濃教育会総集会更埴大会
4　教研推進委員会⑤（中間連絡会）
7　同好会③
14　研究委員長会②　中心講師ご指導
14　教研推進委員会⑥
28　教育会夏期講演会・会員発表
　（メセナホール）
　○上高井教育会報第238号発行
8・1～2　同好会夏期講座①～②　同好会④
21　教研推進委員会⑦　教研学校代表者会②
29　研究推進委員会④（兼　信州教師塾B）
9・1　教研推進委員会⑧　教研分科会長会
　同好会⑤
2　上高井教育研究集会（相森中・高山中・栗ガ丘小・須坂小・常盤中・高甫小）
6　第四回理事会
注　※コロナウイルス感染予防対策のため日程変更もありうる

初めての学級担任

横山貴之

私はこの四月から高山村立高山小学校に赴任し、一年二組の担任をしています。私は今年の三月に大学を卒業しました。大学での教育実習などで先生として子どもたちと関わる機会は何回かありました。しかし、教員としての経験がほぼ無い私に小学校の担任が務まるのか、不安な気持ちでいっぱいでした。そんな心境の中で四月六日の入学式、学級開きを迎えました。

それからもう二ヶ月半が経とうとしています。最初の不安な気持ちは子どもたちと過ごしていくうちにいつしか消えていきました。一年二組の子どもたちは元気いっぱいで授業にも積極的に参加してくれたり、休み時間は鬼ごっこや砂遊び、お絵かきをしたりして遊んでいます。そんな何事にも全力で取り組んでいる子どもたちに私は日々パワーをもらっています。

これまでの学校生活で一番印象的だったのは運動会です。一年生はダンス玉入れとかけっこをしました。練習期間が短い中でたくさん覚えることもあり、子どもたちは大変だったと思います。しかし、本番では保護者の方や地域の方の前で元気いっぱいの完璧なパフォーマンスを見せてくれました。

一年二組の子どもたちと教員一年目の私、お互い一年生として様々な部分で成長を共にしていきたいと思います。

（高山小）

清涼談義

試合後インタビュー／常盤中　小林ゆかり

創造の教科【数学】

駒村俊一

Aさん「次の授業なぁに？」
Bさん「え～、数学かよー。」

教師生活十九年目を迎える私が、これまでに何度も耳にした言葉である。

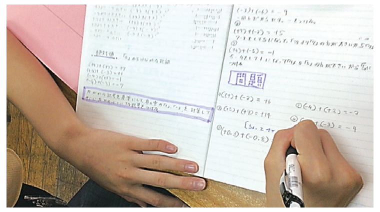
その度に、心は折れ、むしろ内心、生徒に対して腹を立てることさえあった。

今思えば、若さ故の経験不足というどうにもしようのない現実と向き合っていた時期、自分自身の指導力不足を生徒に責任転嫁していた時期だったのだと痛感している。

二十代…教科内研修や主事要請などで、五年間、年二回の授業公開を心掛けた。

三十代…約三年毎に、全校研究や教育課程などの授業公開を乗り越えた。

立派に聞こえるかもしれないが、授業をし終えて、振り返りをした際、悔しくて涙が止まらなかった過去が何度もある。順風満帆に過ごしてきたわけではない。



一時間で付ける力を明確にし、実は生徒を縛り付け、授業者のレールにはめ込んでいた。教師思いの生徒…私はどこに生徒のエージェンシーを発揮させていたのだろうか。

だからこそ今、日常や抽象の数学事象から問題を見いだし解決していく活動を、生徒と共に創っていきたい。

生徒を待ち、生徒に任せ、生徒を見守る。私も、エージェンシーを培っていく。

（小布施中）

【エージェンシーとは】「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」のことだと文部科学省は説明している。

新たなチャレンジ

竹内優美

豊丘小学校では、様々な活動を縦割りで行っています。

今年度からは、総合的な学習の時間を四学年合同で行うという、新たなチャレンジをしています。子どもたちから出されたやってみたいことをもとに「つくる」と「さぐる」二つのチームを作りました。各自で入るチームを選び、集まった仲間と共に活動を進めています。大切にしたいのは、子どもたちが自ら考え動くこと。私たちもその一員となって共に歩みたいと思っています。

どんなことができそうか、子どもたちの願いをさぐり引き出していくところからスタートです。

「さぐる」チームのみんなと話をするうちに「豊丘の自慢をさがそう」という大きなテーマがすわってきました。須坂市指定文化財である旧園里学校に出かけた時のことです。地域の方から「こんな学校を作った豊丘の人たちは教育に熱心だったと分かるね。」と教えてもらい「すごい、これは豊丘の自慢だね。」と子どもたちは感想を持ちました。

四学年合同で行う良さも実感しています。タブレットの使い方や畑の畝作りなど上級生がリードし下級生は学ぶことができます。その反対に、下級生の自由な発想に上級生が心動かされることもあります。

これから、どんな活動が展開されるのか楽しみです。

（豊丘小）

編集後記

令和五年度会報二三八号を発行し、無事お届けすることができました。ご多用のところ、原稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

皆様からのご意見や感想をいただきながら、より親しみをもって読んでいただける会報を目指して参ります。

委員長　松澤裕子（高甫小）
副委員長　山口美直（須坂小）
事務局長　川上徳子（須坂支援）
委員　野見山可奈子（日野小）
馬場ゆみか（墨坂中）
小林誠（小布施中）
今田晴美（高山中）
安藤暁子（栗ガ丘小）

共に学びあいましょう

研究委員会会長　梅本裕之

研究委員会は、上高井教育会の職能研修事業のひとつであり、教員である私たちが、子どもたちに資質・能力を育むための授業改善を学ぶ重要な研修の場です。本年度も中心講師として、信州大学教育学部教授の畔上一康先生をお招きし、全体研究テーマ「子どもと共に創る授業～子どもの学び　教師の学び～」を掲げて研究を重ねてまいります。

ここ数年、一人一台端末や感染症への対応、個別最適な学びや協働的な学びなど、私たちの教育観、授業観の転換が迫られています。かつての効率重視、一斉画一的、知識詰め込み型の教育から脱却し、身につけた知識や技能を社会でどのように生かすのか、AI時代を生き抜く人材をどう育てていくのかという方向へ舵を切っているように思います。これは、私たち自身が変わっていくこと、研修を積んでいくことを求められているということです。

「もっといい授業をつくりたい」と願い、自発的に学び続けていくことは、私たちの責務であり、それが専門的な知識や技術の獲得、職能向上につながるはずです。

研究委員会は、自らこの教科について学びたいと願った先生方が校種、学校の壁を越えて集い、必要感に基づいて自由に主体的に研修できる場です。自分の経験や悩みを本音で語り合い、子どもたちの姿から学び合う機会としていただきたいと考えています。

（豊丘小）

新たな自分の世界と仲間の輪を広げよう！

同好会会長　松本孝志

信濃教育会の幹事会に出席した時、上高井同好会で新たに「ほっと一息○○café」が発足したことが話題となりました。コロナが収束しつつある中、先生方の気持ちの表れではないか、話して繋がりたいのではないか、○○が気になるけれど何だろう…。参加会員数を伝えると、驚きの声が上がりました。

同好会には、教職員としての専門性を高める分野もあれば、自分の趣味や仲間の輪を広げる分野もあります。ここ最近の傾向としては、前者は教育課程研究協議会や郡研で研修を積み重ねることが多く、後者が同好会でより多く求められているように感じます。

自分の新たな趣味の世界を開拓しつつ、職場とは異なる仲間の輪を広げる同好会に参加することで、自身の職能向上と新たな繋がりに期待が持てると思います。

また上高井同好会は、教育会の会員以外や地域の方々にも積極的に参加いただいており、運営は会員の自発的、継続的な活動により支えられています。今年度は十九の同好会でスタートとなりました。

さあ、新たな自分の一歩を踏み出して同好会活動に参加しませんか。そして、仲間を増やし、自分の世界を広げましょう。上高井の十九の同好会が先生方をお待ちしております。ぜひご一緒に！

（森上小）

哲学同好会の紹介

哲学同好会長　高木学

哲学同好会では毎年、夏期講習会期間の講演会を中心に活動を行っています。哲学同好会の夏期講演会の特徴を挙げるとすると、会員以外の先生方のみならず、一般の方にも参加していただいていることでしょう。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が思い通りにできていませんでしたが、感染症法の位置づけで五類に移行した今年は、久しぶりに講演会が実施できるのではと、今から楽しみです。

哲学同好会の夏期講演会は例年、南原町にある普願寺の業田昭映先生に講師をお願いし、様々な講話をしていただいています。毎年違ったテーマで主に仏教に関わるお話をしていただいたり、年によっては座禅の体験をさせていただいたりしています。

わたしたち教職員は、教科指導に関する研修・研鑽の機会は数多くあり、職能向上に努めています。それに対して、業田先生の講話は直接学校教育と関わるものではないかもしれません。けれども、先生のお話から「生きること」の意味を考えることや、仏の教えを学ぶことは、私たちが個々の人間力を高めていく一つの契機となっていると感じています。

興味を持たれた方がいらっしゃいましたら夏の講演会に是非ご参加下さい。

（日野小）

気軽に集まる同好会

ほっと一息○○café同好会長　矢澤拓真

「初任者は、20時まで学校に残って、教材研究をするように。」初任校の校長先生との面談で言われた言葉です。当時はそれが当たり前だと、日々授業準備をしていたものです。夜の職員室。教頭先生と2人きりになることがしばしばありました。そんな時に教頭先生は、大抵愚痴を語り始めます。授業準備は全く進みませんでしたが、教頭職は大変だと初任ながらに感じる毎日でした。これまでいくつかの学校でお世話になりました。夜の職員室では、話し始めると止まらなくなってしまう先生や、この話を聞くの何度目だろうかと同じ話を何度もしてくださる先生方がたくさんいました。これまでの教員生活を振り返ると、そんな時間が、私にとって貴重で元気をもらえる時間だったと感じています。

いち早く帰ることが求められている中で、先生方同士でちょっとした愚痴を言い合う機会が少なくなっている気がします。愚痴に限らず、先輩の先生方の経験やこれまでの失敗談をお聞きして、自分の糧にする機会も減ってきているように感じます。

◇　◇　◇　◇

ほっと一息○○caféは、そんな失われつつあるおしゃべりの時間があったらいいなという思いで誕生しました。現在そんな思いに賛同してくださる先生が三十名を超えています。今後も、多くの先生方に気軽に参加していただける会になればと思っています。

（東中）

本校の中核活動

プロジェクトの皆様とともに

旭ケ丘小学校

五月末、今年も旭ケ丘地域づくり推進プロジェクトと本校四年生による花植えの季節がやってきました。プロジェクトの皆さんと子どもたちが一緒にプランターに花の苗を植えていきます。天候に恵まれ、作業はあっという間に終了。きれいに並んだ花々を見ながら、子どもは満足げな表情を浮かべます。

旭ケ丘地域推進プロジェクトは住みよい街づくりを目指す実働組織です。これまで、プロジェクトと学校が協働で行う学社連携事業に取り組んできました。令和元年台風で被害を受けた松川の緑化を進めるため、六年生が芝生やスイセンを植える活動に取り組みました。また、「プラザ食堂」でのテイクアウト弁当や竹トンボづくりなど子ども参加のワークショップのプロジェクト主催の企画に多くの子どもが参加し、地域の方と交流しています。子どもたちはこうしたイベントを通して、地域の方の顔を覚え、プロジェクトの方は子どもの様子を知っていただく機会となっています。コロナ禍の影響を受けた時期もありましたが、皆さんの熱意と工夫で活動を継続することができました。

さて、定植が終わったプランターは、地域の施設へ配ります。子どもたちは重いプランターを、隣にある北旭ケ丘保育園へ運んでいきました。この花々が地域と学校をつなぐ架け橋になることを願っています。

（関谷　敏）

本校の宝 81

子どもたちを見守る青桐

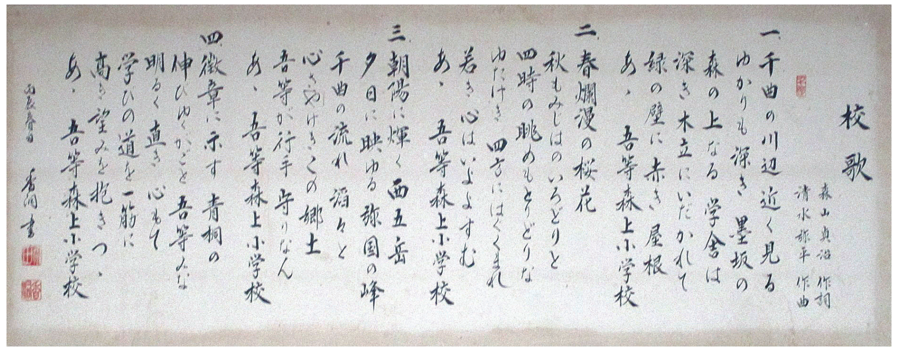
森上小学校

今からおよそ七十年前となる昭和二十九年、森上小学校は、開校二十周年を迎えた。この二十周年の歴史と伝統を想い、学校とPTAが一体となり、様々な事業が計画された。この事業の一つの中で、森上小学校校歌は産声を上げることになる。

開校二十周年記念行事の一環として行われた記念音楽会（昭和二十九年十一月十四日）で発表された校歌は、作詞を当時校長先生だった森山貞治校長先生、作曲を須坂市公民館長清水弥平先生が担当した。

QRコードで校歌が聞けます

この音楽会に参加した六年生中俣君は、次のような感想を残している。「十一月十四日は、僕達六年生にとって最後の音楽会であった。…僕達と先生方の協力によってできた会場は、二十周年の音楽会が行われようと開幕が待たれている。幕が開いた。はじめに開会式をした。校長先生の作詞した校歌は実に良かった。清水先生の作曲も実に美しいと思った。」



桜や紅葉など木立に囲まれた学び舎で、遠くを眺めれば北信五岳や弥固の峰（根子岳）の雄大さや美しさ、千曲川の流れの清らかさを感じていたのだろう。自分が感じていた「森上のよさ」と、校歌が語る「森上のよさ」が重なったことで、彼の心はさらに揺さぶられたのかもしれない。

校歌は、青桐が伸びていくように「明るく直き心」もてと教えてくれている。学校で遊び、学ぶ子どもたちからは、「明るく直き心」に向かって精一杯取り組もうとする様子が感じられる。敷地内にある青桐は、今日も、そんな子どもたちの育ちを見守ってくれている。

（山本　論）